

滋賀大学教育学部連続講座（高大連携事業）第3回を開催しました。

11月12日（土）教育学部において、県内の高校生（受講者90名）を対象とした連続講座「滋賀大学教育学部で何を学ぶか ―どんなことができるの？どんなことをしているの？―」第3回を開催しました。

本連続講座は、滋賀県教育委員会と本学教育学部との高大連携事業として8月から12月まで（10月を除く。）月一回のペースで4回にわたって開催するもので、今回は中根庸介先生（音楽／器楽・管楽器）が「音楽の世界～ヨーロッパの器楽を中心に」と題して講座を実施しました。

講義では、ルネサンス期、ゴシック期、バロック期の教会音楽について、バロック期の器楽作品について、バロック時代の楽器であるリコーダーを例に、管楽器の奏法について、その後の合奏スタイルの変化や、近現代に至る作品様式の変化についての講義が行われました。



（講義をする中根先生）



（講義の様子）